

カウアイ島にて文化交流会

ハワイ州カウアイ島にて、現地時間の1月16日に文化交流会が開催されました。

これは、山口県東部地域グローバル*人材育成事業の一環として、周防大島高校の学生が周防大島町と姉妹島関係にあるカウアイ島を訪れ、カウアイ高校の学生をはじめ、地元の方々と交流することを目的に実施されたものです。

今回の交流会の参加者は200人を超え、山口県からは、平屋副知事、柳居県議会議長をはじめとした県議会議員訪問団と繁吉県教育長、周防大島町からは、藤本町長、荒川町議会議長、楳木山口県大島郡国際文化協会会長や周防大島高校の生徒など、カウアイ郡からは、カワカミ郡長をはじめ、これまでに交流のあったカバリオ前郡長、クサカ元郡長、カウアイ山口県人会の方々など多くの方が集い、今まで積み重ねてきた両島の交流の歴史の大切さを改めて確認し合いました。

交流会では周防大島高校のフラチーム「アロハ・フラ島高」によるフラの披露や、大島音頭を来場者と一緒に踊るなど心温まる交流を行い、次世代の国際交流に向けた大きな一歩を踏み出すことができました。

周防大島は、1963年6月23日にハワイ州カウアイ島と姉妹島縁組みを結び、さまざまな交流を行ってきました。その交流は、文化、産業、スポーツなど多岐に渡り、今年で60周年を迎えます。

*グローバル…グローバル（地球規模の）とローカル（地域的な）という言葉をかけ合わせた造語です。



▲交流会に参加した山口県からの訪問団とカウアイ郡の皆さん

こんにちは、地域おこし協力隊水産振興担当の東です。
この広報が配られる頃には私は協力隊を退任している訳ですが、皆さまのご支援のおかげで3年間、本当に貴重な経験・活動をさせていただきました。ありがとうございます。

例えば3年前、着任直後から新型コロナウイルスの物理的な「賑わいづくり」の根幹が揺らぐ環境の中での活動でしたが、その分思考を一度リセットしてから産地と消費者、地域内外の繋がりについて改めて模索できたことでより本質に近い理解を得られたと感じます。

物理的な移動や集客に制限があるならばと、活動の軸にしてきた「情報発信」では、3年間継続してきたSNS発信数が1400投稿を超えました。1日平均1・28投稿ですから、日記以上の頻度ですね。



テーマは協力隊としての活動・食べ歩き・観光レジャー・家庭料理などさまざまな分野と「水産振興」を絡め、エリアとしては周防大島を中心に、山口県・瀬戸内の魅力発信に努めてきました。

「数打ちや当たる」が全てではありませんが、誰かの心に止まる可能性の追求という意味では「関係人口」の増加につながる具体的アクション事例のひとつは作れたのではないかなと思っています。

退任したら終わりではなく、今後はいち住民として情報発信も含め地域活性化への貢献を継続していきたいと思えます。地域の魅力の実態は、ひとりひとりのポジティブな動きの積み重ねですからね。



▲3年間継続してきたSNSでの情報発信

【P8 ちよび塩クイズ答え：③4倍】

すし飯側につけると米粒とそのすき間にしょう油がたっぷりつくため、ねた側に少しつけるようにしましょう。